

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

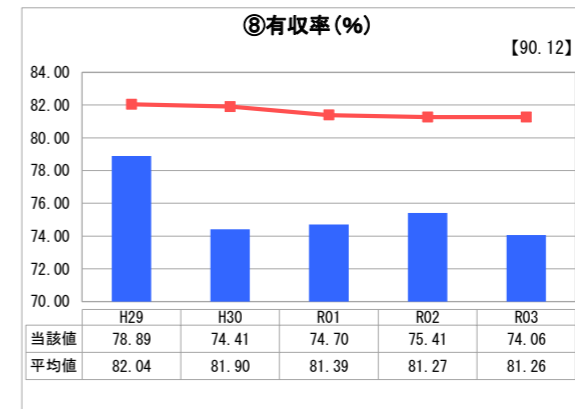
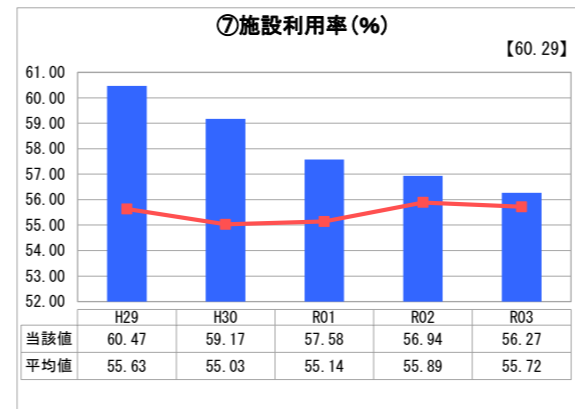
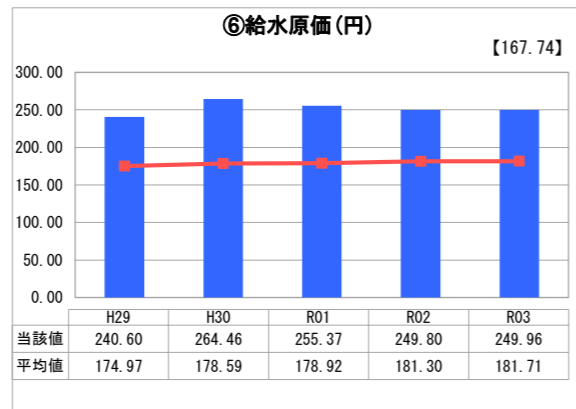
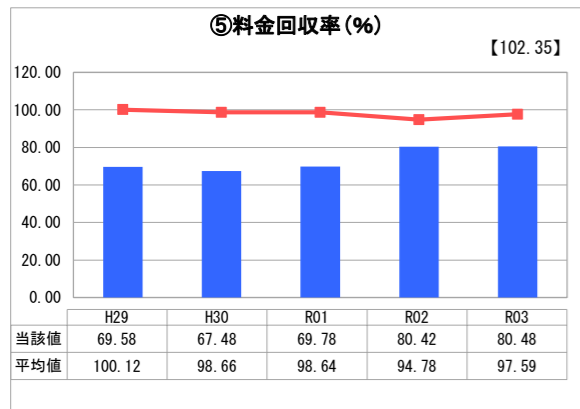
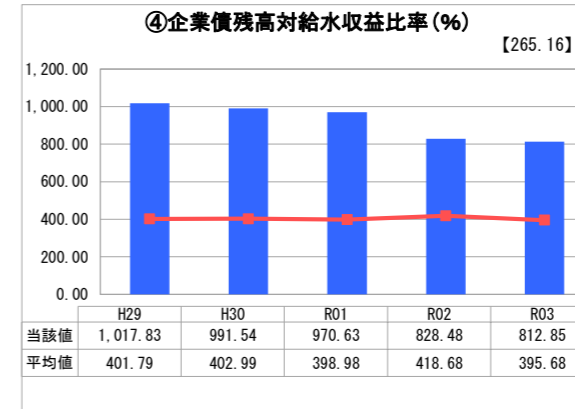
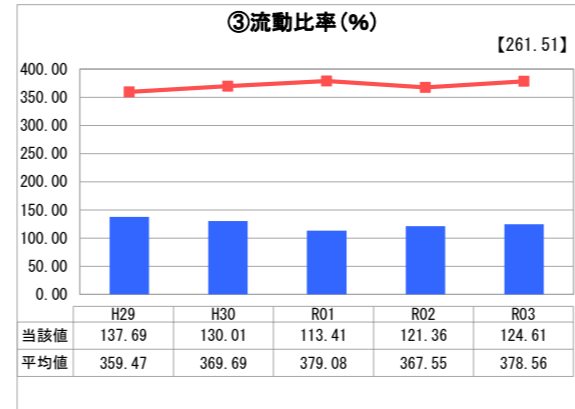
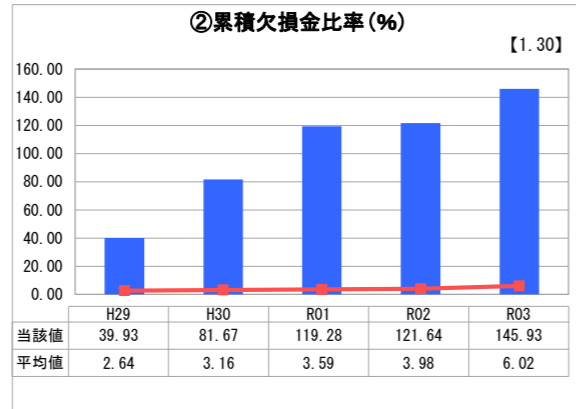
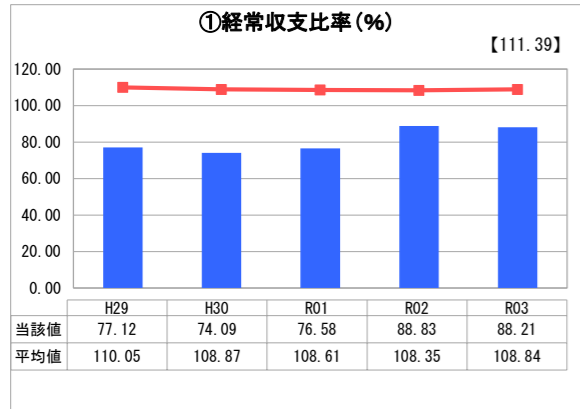
徳島県 三好市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	37.97	83.88	3,630	

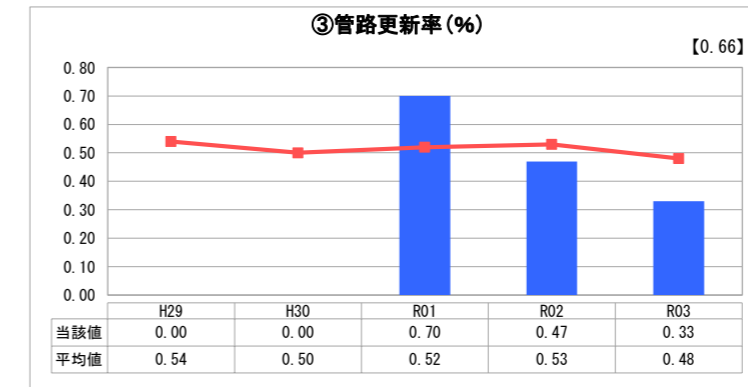
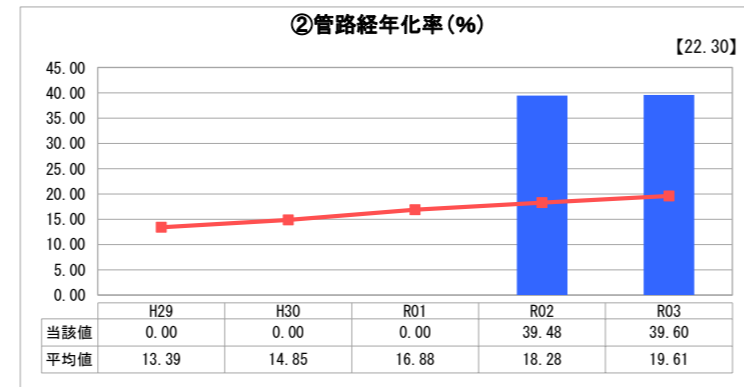
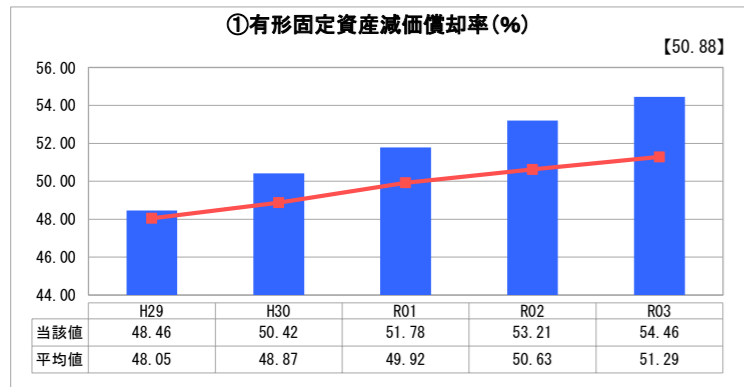
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
24,115	721.42	33.43
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,069	41.41	484.64

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

三好市水道事業においては、広大な面積の中で山間部に施設が点在する経営環境もあり、給水原価が全国平均を大きく上回っている。H29年度より経営統合を行った簡易水道事業においては、社会福祉の面を重視した低価格を用いていた経緯もあり、施設整備の対価としての料金回収率が100%を大きく下回っており、欠損金が発生している状況にある。R2年4月から水道料金の改定を行い増収となったものの、経常収支比率、料金回収率ともに100%に達していないため、今後も料金改定を含め収入確保が必要不可欠である。支出においては、経費削減の効果もあり、流動比率に若干の増加があるが、全国平均や類似団体との比較では大きく下回っている。施設利用率や有収率の数値も低いことから、点在する施設管理を継続的に見直し、将来の給水人口の動向もふまえたダウンサイジングにより効率性を高めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

これまで資料不足であったため不明となっていた管路経年化率の調査が完了した結果、全国平均を大きく上回っていることが判明した。管路だけでなく他の資産（特に統合した簡易水道施設）についても耐用年数を経過した資産が多くみられ、有形固定資産減価償却率が年々増加している。資金不足もある中で、管路更新率は全国平均を下回っており、耐用年数経過資産も増加しているところではあるが、施設的重要性、危機度、補助金の有無などを総合的に判断し、計画的に更新事業を行っている。今後は、更新の財源の確保とともに、甚大化する災害に対して施設の強化もあわせて検討する必要がある。

### 全体総括

利用者からいただく水道料金収入によって、経営に必要な経費をまかなう独立採算性の原則のもと、ライフラインとしての水道を「安全に」「安定的に」供給することが求められている。しかしながら、給水人口の減少や、節水の生活スタイルなど、水需要は減少し、給水収益も年々減少している。一方で、安全に安定的に水道を供給するためには「強靱性」も備えた経営が必要であり、施設の維持管理、更新事業など投資額は増加傾向である。水道事業の経営基盤の強化を図るため、R2年に料金改定を行ったがそれでもなお、経営の健全性を示す数値は低いまま、さらなる経営改善が求められる。